



竣工日2010年3月3日



図書・メディアセンター



教科専門教室

「立志館」は木を多く使用したあたたかみの感じられる建物です。各所に設置されている電子モニターにはその日の予定が示され、生徒はノーチャイムで毎時間、授業のおこなわれる「教科専門教室」に移動します。教科専門教室に隣接した「メディアスペース」（教科オーブンスペース）と「教科ステーション」（教員室）では、教材、生徒作品などの展示物を整備し、教科担当教員が授業時以外でも気軽に生徒の質問や相談に応じています。二階には中学生専用としては全国有数の約3万7千冊の蔵書を誇る図書・メディアセンターも擁しています。

「立志」は、1867年3月29日、父民治への手紙で「確然と志を立て日夜勉強致し…」と新島襄が書いた部分からとられた言葉です。

「立志館」は今出川キャンパスにおいても同志社中学校のメイン校舎のひとつとして、生徒たちに親しまれ、ともに歴史を歩んできました。

新キャンパスにおいて、中学校は近畿で唯一の「教科センター方式」を採用しました。国語、英語、数学、社会をはじめとする全ての教科の授業を「教科専門教室」でおこなっています。「立志館」は「教科センター方式」を展開する中学校のメイン教室棟として、新たな一歩を踏み出しています。

## 静和館(同志社女子中学校・高等学校)



竣工日1993年7月14日

現在の「静和館」とほぼ同じ位置にあった煉瓦造りの二階建て旧「静和館」は明治44年11月29日の同志社創立記念日に定礎式がなされた。その際、原田助社長より「本館ハ北米合衆國太平洋婦人傳道會社ヨリ我同志社ニ寄贈セラレタルモノニシテ、實ニ太平洋沿岸並ニ近接諸州ニ在ル多數婦人ノ義侠ナル同情ニ成レルモノナリ、故ニ其厚意ヲ紀念センガ為メパシフィック(Pacific)ノ字ニ因ミンテ静和館ト命名ス」と「静和館建設の始末」の朗読があった。ここに命名のいわれがわかる。1993年7月に竣工した2代目になる現在の建物もその名称を引き継いでいる。地上4階、地下1階の建物で、1階から3階までは各階1学年ワンフロアで高校生全クラスのホールムームがある。4階には1学年が入れるホールがあり、栄光館のファウラーチャペルとともに女子中学校・高等学校の根幹である毎朝の礼拝は勿論、学年単位の講演会などにも使われている。地下には図書・情報センターがあり、開架式書架による図書閲覧とインターネットの利用が可能で、学習センターとして総合学習の授業や放課後の生徒の知的探索の場所となっている。

ちなみに旧静和館解体の際タイムカプセルの中に『静和館建設の始末』の毛筆書面が封入されていた。現在は修復し保管されている。